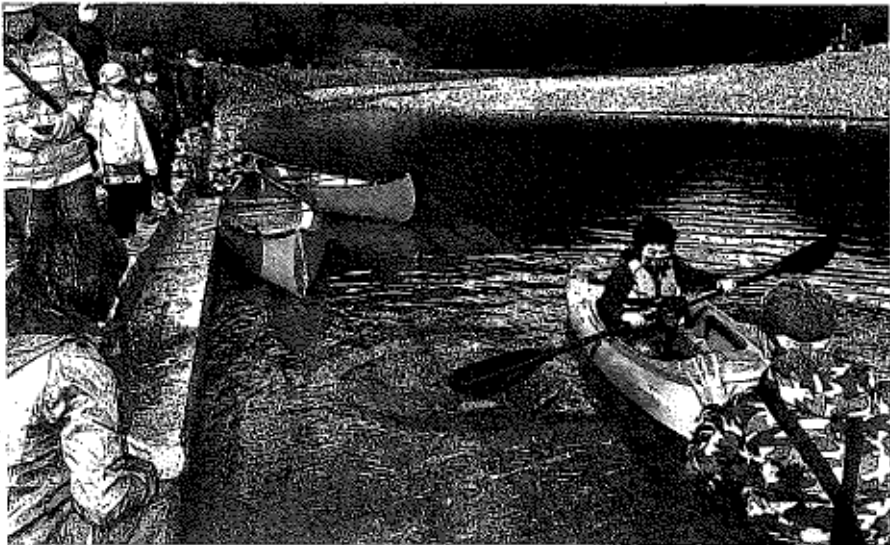


きれいな銚子川満喫

水中カメラで青さと実感



カヌーに乗る参加者

三重県立熊野古道センターの熊野古道自然学校が27日、紀北町便ノ山のキャンプ・イン・海山であり、町内外の親子連れ9人がカヌー体験や水中の生き物観察に取り組んだ。

熊野古道の植物や生き物を学ぶ講座で、「銚子川ブルー体感」をテーマに、キャンプ・イン・海山を運営するふるさと企画舎の田上至理事長が講話。

この地域は海からの暖かい空気が上流にある大台ヶ原にぶつかって雨がたくさん降ること、銚子川の下には伏流水が流れていること、といったきれいな水の仕組みを紹介し、「川を泳いでいるこ

すごく冷たい水が流れている部分があるが、それは伏流水が流れ込んでいるから。台風からしばらく経つと、ものすごくきれいな青色になる」と説明した。

川の中に水中カメラを入れ、魚やエビが泳いでいる姿が映し出されると、子どもたちは「外から見るとエメラルドグリーンなのに、中からだと水が青く見える」「すごく透明できれい」と声を上げた。

続いて、カヌーから水中生物を観察した。参加者はパドルの操作方法のコツをつかむと、川を自由に移動して、箱眼鏡で水中をのぞきこみ、ウグイやカワムツなどを見つけた。

家族で参加した徳田小

4年の大門長嗣君は「カヌーには初めて乗って、できないと思っていたけど、すごく楽しかった。上から見ると、中から見ると川の色が違うのがびっくりした」と笑顔で話した。

玉城町から親子で参加した5年生の村田蒼空君は「すごくきれいな川で感動した。カヌーは最初こわかったけどどんどんできるようになって、自分でもうまく泳げるようになったと思う」と興奮気味に語った。